

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□ 現代文（評論）採点基準（合計40点）

問一（各2点） (1) 断絶 (2) 依拠 (3) 飛躍 (4) 疎外 (5) 変貌

問二 6点

（模範解答例）

A ○1点

人文科学的アプローチによる存在への問いと、

B ○1点

自然科学的アプローチによる存在者への問いの

C ① ○1点

C ② ○1点

二元的対立の一方に偏るのを拒否することで切り開かれる、これらの矛盾したアプロ

C ③ ○1点

チを繋ぐメタレヴェルの方法論的空間がありえ、二つの問いが実践的に関連づけられう

X ○1点（弁証法Ⅱ創造すること）

ることに基づく可能性。（6点）

【構造点】

・ Xは、傍線部を説明する、A、Bの〈矛盾〉する二契機（条件）を〈止揚〉してCに至る〈弁証法Ⅱ創造すること〉の仕組みへの評価である。ここでは条件A、Bの二契機（条件）と、C内の要素が一つでもあれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X 〈弁証法Ⅱ創造すること〉 A + B + Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士、また条件C内で原則的に部分採点可能。（5点満点）

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した条件と要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。（1点満点）

A 「人文科学的アプローチによる存在への問いと、」（1点）

※ 傍線部を説明する〈弁証法Ⅱ創造すること〉の一方の契機（条件）。

○ 「人文科学的アプローチによる『存在することとは何か』の問いと、」「人文科学的アプローチによる存在の理解の仕方と、」などでも可。

× 「人文科学的アプローチ」「存在への問い」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

B 「自然科学的アプローチによる存在者への問いの」(1点)

※ 傍線部を説明する〈弁証法Ⅱ創造すること〉の、Aとは〈矛盾〉する契機(条件)。

○ 「自然科学的アプローチによる『存在するものとは何か』の問いの」「自然科学的アプローチによる存在者の理解の仕方」などでも可。

× 「自然科学的アプローチ」「存在者への問い」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

C 「二元的対立の一方に偏るのを拒否することで切り開かれる、これらの矛盾したアプ

ローチを繋ぐメタレヴェルの方法論的空間がありえ、二つの問いが実践的に関連づけられることに基づく可能性。」(3点)

※ A、B二契機(条件)の〈矛盾〉を〈止揚〉して切り開かれる(創造される)第三の契機(条件)。

① 「二元的対立の一方に偏るのを拒否することで切り開かれる、」の要素に1点。

○ 「二元的対立の一方を偏重するのを拒むことで展開される、」「二元的対立の苦悩を引き受けることで切り開かれる、」などでも可。

× 「二元的対立の一方に偏るのを拒否する」「切り開かれる」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点

② 「これらの矛盾したアプローチを繋ぐメタレヴェルの方法論的空間がありえ、」の要素に1点。

○ 「矛盾を超えてこれらのアプローチを結びつけるメタレベルの方法論的空間が存在しえて、」「矛盾する二つのアプローチを結合するメタレベルの方法論的空間が開かれて、」などでも可。

× 「矛盾したアプローチを繋ぐ」「メタレヴェルの方法論的空間」の二成分がそろっていないければ×0点。

③ 「二つの問いが実践的に関連づけられることに基づく可能性。」の要素に1点。

○ 「二つの問いがプラグマティックに関係づけられることによる可能性。」「二つの疑問が実践的に結びつけられる事態に基づく可能性。」などでも可。

× 「二つの問い」「実践的に関連づけられることに基づく」「可能性」の三成分がそろっていないければ×0点。

(模範解答例)

A ○1点

真摯に、しかしナイーブに充実して生きている自己を映すような視点に対し、

B ○1点

そのような自己を外側から見る視点を内部に取り込むことで生起する

X ○1点〈逆説〓矛盾を含むこと〉

C ○1点 Y ○1点〈総合〓まとめること〉

自己の分裂は、

D ① ○1点

D ② ○1点

対人関係における責任がそれを生きること并要求するという、社会倫理的な根源的分裂

Z ○1点〈分析〓分けること〉

に由来しているのだという意味。(8点)

【構造点】

・Xは、傍線部を、A、Bの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明してゆく〈逆説〓矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。A、Bがそろっていれば1点加算。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A + B ○1点

・Yは、A、BをCに〈総合〓まとめること〉する仕組みへの評価である。条件A、B、Cがそろっていれば、この仕組みは成立しているとみなし1点加算。

Y 〈総合〓まとめること〉 A + B + C ○1点

・Zは、条件Dを根本的な〈原因・理由〉とし、〈A + B + C〉を〈結果〉とする〈因果関係〉の二成分に〈分析〓分けること〉して、傍線部を説明する仕組みへの評価である。ここでは、条件A、B、Cの内一つ以上があり、また条件D内の要素が一つ以上入っていれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Z 〈分析〓分けること〉 〈A、B、Cの内の一つ以上〉 + Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士、また条件D内でも原則的に部分採点可能。(5点満点)

※ ただし、【構造点】X、Y、Zは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(3点満点)

A 「真摯に、しかしナイーブに充実して生きている自己を映すような視点に対し、」(1点)

※ 傍線部を説明してゆく一方の条件。

○ 「真摯に充実して生きているときの、自己がいきいきと生きられた自己を映すような見方に対し、」真摯に充実して、だがナイーブに生きている自己を映し出すような見方に対して、」などでも可。

× 「真摯に、しかしナイーブに充実して生きている」「自己を映すような視点」の二成分の二成分がそろってなければ×0点。

B 「そのような自己を外側から見る視点を内部に取り込むことで生起する」(1点)

※ 傍線部を説明してゆく、Aとは矛盾する他方の条件。

○ 「自己の外側から自己を見る視点を自己の内側に取り込むことで引き起こされる」「自己を自己にとってはおもとも外側だった視点からみる見方を内部に取り込むことで生じる」などでも可。

× 「自己を外側から見る視点を内部に取り込む」「生起する」の二成分がそろっていなければ×0点。

C 「自己の分裂は、」(1点)

※ A、Bを総合(まとめる)条件。

○ 「自己の見方の分裂は、」「自己の存在の分裂は、」などでも可。

× 「自己」「分裂」の二成分がそろっていなければ×0点。

D 「対人関係における責任がそれを生きること并要求する」という、**社会倫理的な根源的分裂に由来しているのだという意味。**」(2点)

※ 〈A+B+C〉の〈結果〉をもたらす、**根本的な〈原因・理由〉**をなす条件。

① 「対人関係における責任がそれを生きること并要求する」という、「**の要素に1点。**」

○ 「対人関係における責任が要請する、」「対人関係における責任から必然化される、」などでも可。

× 「対人関係における責任」「それ(＝社会倫理的な根源的分裂)を生きること并要求する」の二成分がなければ×0点。

② 「**社会倫理的な根源的分裂に由来しているのだという意味。**」の要素に1点。

○ 「根源的な社会倫理的な分裂から来ているのだという意味。」「人間存在の社会倫理的な条件がもたらす根源的な分裂に拠っているのだという意味。」などでも可。

× 「社会倫理的な根源的分裂」「由来している」の二成分がそろっていなければ×0点。

問四 8点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

オイディプスはナイーブな生の中でそれと知らずに、

父を殺し、母と結婚していた

という罪と穢れに苦悩していたのみならず、

B①〇1点

B②〇1点

ナイーブな生を見る見方を保持しつつ 自己を対象化する見方をも取り込んだ自己分裂の

X〇1点〈逆説⇕矛盾を含むこと〉

苦悩にも陥るといふ、

Y〇1点〈分析⇕分けること〉

C〇1点

Z〇1点〈総合⇕まとめること〉

存在の内容と構造の二重の苦悩に陥っていたという意味。(8点)

【構造点】

・Xは、B内部を、B①とB②の〈矛盾〉する二要素に引き裂いて説明する〈逆説⇕矛盾を含むこと〉の
仕組みへの評価である。B①とB②がそろっていけば、この仕組みが成立しているとみなし1点加
点。(解答解説には入っていないが、新たな採点項目とする。)

X〈逆説⇕矛盾を含むこと〉 B①+B② 〇1点

・Yは、条件Aと条件Bを〈not onlyX-but alsoY〉の構文をなす二要素に〈分析⇕分けること〉する仕
組

みへの評価である(ちなみに、A=not onlyX B=but alsoY)。ここでは、条件A、B内の要素がそれ
ぞれ一つ以上入っていれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加
点。

Y〈分析⇕分けること〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

・Zは、条件A、BをCに〈総合⇕まとめること〉する仕組みへの評価である。ここでは、A、Bの要素
がそれぞれ一つ以上と、条件Cがはいっていけば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1
点加
点。

Z〈総合⇕まとめること〉 Aの要素+Bの要素+C 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士、またA、Bは条件内でも原則的に部分採点可能。(5点満点)

※ ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した条件と要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加点する。(3点満点)

A 「オイディプスはナイーヴな生の中でそれと知らずに、父を殺し、母と結婚していたという罪と穢れに苦悩していたのみならず、」(2点)

※ 傍線部の前半の内容を説明する〈not only X〉の条件。

① 「オイディプスはナイーヴな生の中でそれと知らずに、」の要素に1点。

○ 「オイディプスはナイーヴに生きる中で気づかぬままに、」
「オイディプスはナイーヴな生において知ることのないままに、」などでも可。

× 「オイディプス」「ナイーヴな生の中でそれと知らずに」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「父を殺し、母と結婚していたという罪と穢れに苦悩していたのみならず、」の要素に1点。

○ 「父を殺し、母と結婚していたという存在としての罪と穢れに苦悩してただけではなく、」
「父殺し、母子相姦の罪と穢れに苦悩する」とともに、「」などでも可。

× 「父を殺し、母と結婚していた」「罪と穢れに苦悩していたのみならず」のニュアンスの二成分がなければ×0点。

B 「ナイーヴな生を見る見方を保持しつつ自己を対象化する見方をも取り込んだ自己分裂の苦悩にも陥るといふ、」(2点)

※ 傍線部の後半の内容を説明する〈but also Y〉の条件。

① 「ナイーヴな生を見る見方を保持しつつ」の要素に1点。

※ B内部を説明する〈逆説||矛盾を含むこと〉の仕組みを構成する一方の要素。

○ 「ナイーヴな生を見る視点を失うことなく」「ナイーヴな生を見る観点を維持し
たまま」などでも可。

× 「ナイーヴな生を見る見方」「保持」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

② 「自己を対象化する見方をも取り込んだ自己分裂の苦悩にも陥るといふ、」の要素に1点。

※ B内部を説明する〈逆説||矛盾を含むこと〉の仕組みを構成する、B①とは〈矛盾〉する他方の要素。

○ 「外側から自己を厳しく対象化する見方をも取り込んで決定的な自己分裂の苦悩に捕らわれるといふ、」
「自己の存在を対象化して見る見方を導入することで自己分裂の苦しみにみまわれるといふ、」などでも加。

× 「自己を対象化する見方をも取り込んだ」「自己分裂の苦悩」のニュアンスの二

成分がそろっていないければ×0点。

C 「存在の内容と構造の二重の苦悩に陥っていたという意味。」(1点)

※ A、Bをまとめて結論づける条件。

○ 「存在の内容の穢れと構造の二重性から来る二重の苦悩にとらわれていたという意味。」「存在の穢れという内容と、存在の自己分裂という構造からくる二重の苦悩に陥っていたという意味。」などでも可。

× 「存在の内容」「存在の構造」「二重の苦悩」のニュアンスの三成分がそろっていないければ×0点。

問五 8点

(模範解答例)

A ○ 1点

オイディプスが、自己の穢れた真実を知った時、

B ○ 1点

幸福だった時の記憶を疎外せず、

C ① ○ 1点

C ② ○ 1点

二つの真実の矛盾に苦悩すること、

だれもが抱えている存在の二重性という根源的、

C ③ ○ 1点

C ④ ○ 1点

倫理的分裂の悲劇、

あるいはアイデンティティの危機を

直視し耐え抜いて到達しえた

X ○ 1点 (弁証法 || 創造すること)

経験の成熟を示すもの。

Y ○ 1点 (分析 || 分けること) (8点)

【構造点】

・ X は、C 内部で、C ①、C ②、C ③内に示されている。二つの真実の (矛盾)、あるいは根源的、倫理的分裂ないしはアイデンティティの危機を、C ④に向けて (止揚) してゆく (弁証法 || 創造すること) の仕組みへの評価である。ここでは C ①、C ②、C ③の要素のうちの少なくとも一つがあり、それに C ④があればこの仕組みの骨組みが成立しているとみなし 1点加算。

X (弁証法 || 創造すること) (C ①、C ②、C ③の内の一つ以上) + C ④ ○ 1点

・ Y は、条件 A を、B と C の (not X ~ but Y) の構文を構成する二成分に (分析 || 分けること) して説明す

る仕組みへの評価である。ここでは、A、B があって、C 内の要素が一つ以上あれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして 1点加算。

Y (分析 || 分けること) (A + B + C の要素) ○ 1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C は条件同士、また条件 C 内で原則的に部分採点可能。(6点満点)

※ ただし、【構造点】X・Y は、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

A 「オイディプスが、自己の穢れた真実を知った時、」(1点)

※ 傍線部のオイディプスの言葉に対する筆者の考えを説明するための前提条件。

○ 「オイディプスが、自己の存在の穢れを知った時、」「オイディプスが、自己の穢れた真実に気づいた時、」などでも可。

× 「オイディプス」「自己の穢れた真実を知った」の二成分がそろっていないければ×0点

B 「幸福だった時の記憶を疎外せず、」(1点)

※ 条件Aを説明する一方の条件。〈not X〉の内容を持つ。

○ 「幸福だった時の存在の見方を忘却することなく、」「幸福だったころの存在の見方を忘れることなく、」などでも可。

× 「幸福だった時の記憶」「疎外せず」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

C 「二つの真実の矛盾に苦悩すること、だれもが抱えている存在の二重性という根源的、倫理的分裂の悲劇、あるいはアイデンティティの危機を直視し耐え抜いて到達した経験の成熟を示すもの。」(4点)

※ 条件Aを説明する他方の条件。〈but X〉の内容を持つ。しかも内部に〈弁証法Ⅱ創造すること〉の仕組みを内包する。

① 「二つの真実の矛盾に苦悩すること、」の要素に1点。

※ 〈弁証法Ⅱ創造すること〉の〈矛盾〉する二契機を含む要素。

○ 「記憶の真実と現実の真実の対立に苦悩すること、」「二つの真実の避けがたい論理的矛盾に苦しむこと、」

× 「二つの真実の矛盾」「苦悩」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

② 「だれもが抱えている存在の二重性という根源的、倫理的分裂の悲劇、」の要素に1点。

※ 〈弁証法Ⅱ創造すること〉の〈矛盾〉する二契機を含む要素。

○ 「平凡な人生を送るだれもが抱える根源的、倫理的分裂の悲劇、」「だれもが逃れることができない根源的な存在の分裂の悲劇、」などでも可。

× 「だれもが抱えている存在の二重性」「根源的、倫理的分裂の悲劇」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

③ 「あるいはアイデンティティの危機を」の要素に1点。

※ 〈弁証法Ⅱ創造すること〉の〈矛盾〉する二契機を含む要素。C②の言い換えの要素。

○ 「または自己同一性の危機を」「ないしはアイデンティティの分裂の危機を」などでも可。

- × 「アイデンティティ」「危機」の二成分そろっていないければ×0点。
- ④ 「直視し耐え抜いて到達しえた経験の成熟を示すもの。」の要素に1点。
 - ※ 〈弁証法Ⅱ創造すること〉の〈止揚〉されて到達される次元（契機）の要素。
 - 「立ち向かい耐え抜いた経験の成熟を証すもの。」「逃げることなく立ち向かった経験の成熟が語らしめるもの。」などでも可。
 - × 「直視し耐え抜いて到達しえた」「経験の成熟」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点

日 現代文（小説）採点基準（合計35点）

問一 7点

（模範解答例）

A①〇1点

軽々鬱病の気分を晴らすために、

A②〇1点

心のどこかで押売りが来たらかまってるやろうとひそ

かに待っている」と、

B①〇1点

玄関から声がしたので、押売りか、洋服生地売りかなどと思いつつ、

B②〇1点

やっつけてやろう

と出てみたのに、

C①〇1点

C②〇1点

いたのはカバンを持った中年の、顔や服装からして押売りでないわかる男だったから。

X〇1点（逆説⇨矛盾を含むこと）（7点）

【構造点】

・Xは、Aを矛盾する二条件B、Cに引き裂いて説明する（逆説⇨矛盾を含むこと）の仕組みに対する評価である。ここでは、条件A、B、C内の要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加点。

X（逆説⇨矛盾を含むこと）

Aの要素＋Bの要素＋Cの要素

〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士、また各条件内で原則的に部分採点可能。（6点満点）

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。（1点満点）

A 「軽々鬱病の気分を晴らすために、心のどこかで押売りが来たらかまってるやろうとひそかに待っている」と、」（2点）

※ 傍線部を説明するための前提条件。

① 「軽々鬱病の気分を晴らすために、」の要素に1点。

○ 「鬱々とした気分を拭い去るために」「憂鬱な気分を晴らそうとして」などでも

可。

× 「軽々鬱病の気分」「晴らす」のニュアンスの二成分がそろっていないと×0点。

② 「心のどこかで押売りが来たらかまってもやろうとひそかに待っていると、」の要素に1点。

○ 「押売りがこないかな、きたらかまってもやろうと心密かに待っていると、」心ひそかに、押売りが来たら敵意をもって応じようと待っていると、」などでも可。
× 「心のどこかで」「押売りが来たらかまってもやろう」「ひそかに待っている」のニュアンスの三成分がそろっていないなければ×0点

B 「玄関から声がしたので、押売りか、洋服生地売りかなどと思いつつ、やっつけてやろうと出てみたのに、」(2点)

※ 条件Aを説明する一方の条件。

① 「玄関から声がしたので、押売りか、洋服生地売りかなどと思いつつ、」に1点。

○ 「玄関からの声で、押売りそれとも洋服生地売りかなどと考えつつ、」「玄関から聞こえる声に、押売りか洋服生地売りかなどと想像しながら、」などでも可。

× 「玄関から声」「押売り(洋服生地売り…)かなどと思う」の二成分がそろっていないければ×0点。

② 「やっつけてやろうと出てみたのに、」の要素に1点。

○ 「撃退してやろうとでてみたが、」「とちめてやろうとおもってでてみたのに、」などでも可。

× 「やっつけてやろう」「出てみた」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

C 「いたのはカバンを持った中年の、顔や服装からして押売りでないと分かる男だったから。」(2点)

※ 条件Aを説明する、条件Bとは矛盾する他方の条件。

① 「いたのはカバンを持った中年の、」の要素に1点。

○ 「鞆を持った中年の男が玄関に立っていたので、」「二十七、八歳のカバンを持った男が立っていたので」などでも可。

× 「(玄関に立って)いた」「カバンを持った中年」の二成分がそろっていないければ×0点。

② 「顔や服装からして押売りでないと分かる男だったから。」の要素に1点。

○ 「風体からして押売りでないと判断できる男だったから。」「外見からして押売りであるはずがない男だったから。」などでも可。

× 「顔や服装からして」「押売りでないとわかる男だったから。」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

問一 10点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

タダ舞いは台所で間に合ってますと断られたものの、

W〇1点〈逆説〓矛盾を含むこと〉
いるのは女子供だけだろうから、

玄関で舞えば金をとれると思って来たのに、

B①〇1点

B②〇1点

出てきたのが体の大きな、無精髭を生やした人相の悪い男だったので

X〇1点〈分析〓分けること〉

Y〇1点〈逆説〓矛盾を含むこと〉

のだが、

C①〇1点

C②〇1点

勘違いを装って それを何とかごまかそうとする気持ち。(10点)

Z〇1点〈否定による総合〓否定によってまとめること〉

【構造点】

・wは、条件Aを、A①、A②の〈矛盾〉する二要素に引き裂く、〈逆説〓矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。ここではA①とA②がそろっていれば、この仕組みが成立しているとして1点加算。

W〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A①+A② 〇1点

・Xは、条件Bを、〈因果関係〉の二要素B①、B②に〈分析〓分けること〉する仕組みへの評価である。ここではB①とB②がそろってれば、この仕組みが成立しているとして1点加算。

X〈分析〓分けること〉 B①+B② 〇1点

・Yは、傍線部を、〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明する、〈逆説〓矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。ここでは条件A、B内の要素がそれぞれ一つ以上入ってれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y〈逆説〓矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

・Zは、〈A+B〉の内容を〈否定〉する形でCにまとめてゆく、〈否定による総合〓否定によってまとめること〉の仕組みへの評価である。ここでは、A、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上入ってれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加算。

Z〈否定による総合〓否定によってまとめること〉 Aの要素+Bの要素+Cの要素

〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士、また各条件内で原則的に部分採点可能。(6点満点)

※ ただし、【構造点】W・X・Y・Zは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(4点満点)

A 「タダ舞いは台所で間に合ってますと断られたものの、いるのは女子供だけだろうか
ら、玄関で舞えば金をとれると思って来たのに、」(2点)

※ 傍線部を説明する一方の条件。

① 「タダ舞いは台所で間に合ってますと断られたものの、」の要素に1点。

※ A内を引き裂いて説明する、〈矛盾〉する要素の一方。

○ 「タダ舞いは台所で不要と断られはしたが、」 「タダ舞いは台所でいらないと断られてはしたが、」 などでも可。

× 「タダ舞い」 「台所で間に合ってますと断られた」 のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

② 「いるのは女子供だけだろうか、玄関で舞えば金をとれると思って来たのに、」の要素に1点。

※ A内を引き裂いて説明する、〈矛盾〉する要素の他方。

○ 「女子供しかいないなら、玄関にいつて舞えば金になると思って来たところが、」 「女子供しかいないだろうから、玄関の方で舞えば金を出さだろうと思ってきたが、」 などでも可。

× 「女子供だけ」 「玄関で舞えば金をとれる」 のニュアンスの二要素がそろっていないければ×0点。

B 「出てきたのが体の大きな、無精髭を生やした人相の悪い男だったのでひるんでしまったのだが、」(2点)

※ 傍線部を説明する、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「出てきたのが体の大きな、無精髭を生やした人相の悪い男だったので」の要素に1点。

※ Bを〈因果関係〉で説明する〈因〉の要素。

○ 「姿を現したのが大きな体の、無精髭を生やした悪人相の男だったため」「大男で無精ひげの人相の悪いのがぬっと現れたので」 などでも可。

× 「出てきた」「体の大きな、無精髭を生やした人相の悪い男」のニュアンスの二成分がそろっていないと×0点。

② 「ひるんでしまったのだが、」の要素に1点。

※ Bを〈因果関係〉で説明する〈果〉の要素。

○ 「ぎょつとしてしまったのだが、」「勢いを削がれてしまったが、」などでも可。

× 「ひるんでしまった」のニュアンスがなければ×0点。

C 「勘違いを装ってそれを何とかごまかそうとする気持ち。」(2点)

※ A、Bをともに〈否定してまとめる〉条件。

① 「勘違いを装って」の要素に1点。

○ 「勘違いのふりをして」「間違ったと言わんばかりに」などでも可。

× 「勘違い」「装う」ニュアンスの二成分がそろっていないなければ×0点。

② 「それを何とかごまかそうとする気持ち。」の要素に1点。

○ 「その場を何とかやりすごそうという気持ち。」「その状況をなんとか切り抜けようという気持ち。」などでも可。

× 「何とかごまかそう」「気持ち」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

(模範解答例)

A①〇1点

シシ舞いが間に合っているとはどんな風に間に合っているんだと、うまく反撃したつも

A②〇1点

りになっているタダ舞いの勢いを すかしてあれっと思わせ、

W〇1点〈逆説〓矛盾を含むこと〉

B〇1点

また意外な答えに読者をも笑いに誘うユーモアを盛り込んで、

X〇1点〈分析〓分けること〉

C〇1点

話の前半を陽気に展開させて、

Y〇1点〈共通性の抽象による総合〓共通性を引き出してまとめること〉

D〇1点

暗転して行く後半の内容との間に落差を与えるという効果。(9点)

Z〇1点〈逆説〓矛盾を含むこと〉

【構造点】

・Wは、条件A内部を、A①、A②の〈矛盾〉する二要素に引き裂いて説明する〈逆説〓矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。ここでは条件A①、A②がそろっていればこの仕組みが成立しているとして1点加算。

W 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A①+A② 〇1点

・Xは、傍線部の効果の半分を条件Aと条件Bに〈分析〓分けること〉して説明していく仕組みへの評価である。ここでは、条件A内の要素が一つ以上と、条件Bがそろっていれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加算。

X 〈分析〓分けること〉 Aの要素+B 〇1点

・Yは、条件Aと条件Bから〈共通性〉を引き出してCにまとめる、〈共通性の抽象による総合〓共通性を引き出してまとめること〉の仕組みへの評価である。ここでは、Aの要素と条件B、Cがそろっていればこの仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y 〈共通性の抽象による総合〓共通性を引き出してまとめること〉 Aの要素+B+

C 〇1点

・Zは、傍線部の効果を、言わば〈A+B+C〉の〈明〉とCの〈暗〉に引き裂いて説明する、〈逆説|| 矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。ここでは、〈Aの要素、条件B、C〉の〈明〉の成分のどれかと条件Dがそろっていれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Z 〈矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、B、C〉のどれか+D ○1点

◎ 採点のポイント

A①○1点

シシ舞いが間に合っているとはどんな風に間に合っているんだと、うまく反撃したつも

A②○1点

りになっていくタダ舞いの勢いを すかしてあれっと思わせ、

W○1点 〈逆説|| 矛盾を含むこと〉

B○1点

また意外な答えに読者をも笑いに誘うユーモアを盛り込んで、

X○1点 〈分析|| 分けること〉

C○1点

話の前半を陽気に展開させて、

Y○1点 〈共通性の抽象による総合|| 共通性を引き出してまとめること〉

D○1点

暗転して行く後半の内容との間に落差を与えるという効果。(9点)

Z○1点 〈逆説|| 矛盾を含むこと〉

※ A、B、C、Dは条件同士、また条件A内で原則的に部分採点可能。(5点満点)

※ ただし、【構造点】W・X・Y・Zは、右に示した条件と要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(4点満点)

A 「シシ舞いが間に合っているとはどんな風に間に合っているんだと、うまく反撃したつもりになっているタダ舞いの勢いをすかしてあれっと思わせ、」(2点)

※ 傍線部の効果を説明する、〈明〉の側の一方の条件。

① 「シシ舞いが間に合っているとはどんな風に間に合っているんだと、うまく反撃したつもりになっているタダ舞いの勢いを」の要素に1点。

※ 条件A内部を引き裂いて説明する、〈矛盾〉する要素の一方。

○ 「シシ舞いが間に合っているとはどういうことなのだ、巧妙に逆襲したつもりになっているタダ舞いの調子を」「シシ舞いが間に合っているとはどう間に合っているのだと、逆襲がうまくいったつもりになって調子づいているタダ舞いを」

などでも可。

× 「シシ舞いが間に合っているとはどんな風に間に合っているんだ」「うまく反撃したつもりになっているタダ舞いの勢い」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

② 「すかしてあれっと思わせ、」の要素に1点。

※ 条件A内部を引き裂いて説明する、〈矛盾〉する要素の他方。

○ 「肩すかしをくらわさせてえっと思わせ、」「いなしてあれっと思わせ、」なども可。

× 「すかして」「あれっと思わせ」のニュアンスの二成分そろっていないければ×0点。

B 「また意外な答えに読者をも笑いに誘うユーモアを盛り込んで、」(1点)

※ 傍線部の効果を説明する、〈明〉の側の他方の条件。

○ 「また予想外の対応で読者を笑わせるユーモアを感じさせて、」「意外な答えだけが『私』の風貌との符合に読者の笑いを引き出すユーモアを感じさせ、」などでも可。

× 「意外な答え」「読者をも笑いに誘うユーモア」の二成分がそろっていないければ×0点。

C 「話の前半を陽気に展開させて、」(1点)

※ A、Bから〈共通性〉である〈明〉の内容を引き出して前半をまとめる条件。

○ 「前半の話を明るくまとめて、」「話の前半を陽気な調子でまとめて上げて、」などでも可。

× 「話の前半」「陽気」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

D 「暗転して行く後半の内容との間に落差を与えるという効果。」(1点)

※ 傍線部の効果を説明する〈暗〉の側の条件。〈A+B+C〉とは〈矛盾〉する条件といえる。

○ 「後半の暗転をひきたてる落差を作り出すという効果。」「後半への暗転を劇的なものにする落差をつくりだす効果。」

× 「暗転してゆく後半」「落差を与える」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

問四 9点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

自分が死ねばこの世はないから保険は不要だと言って、 自分を愛人と思わせ、

A③○1点

A④○1点

あるいは相手をからかうようにして 保険の勧誘員を撃退したが、

B①○1点

半年前に見た、訓練でのおどしている保険新入り勧誘員たちの姿を思い出して、

B②○1点

X○1点〈逆説||矛盾を含むこと〉

今回の勧誘員に二重につらさをあたえたことに気づき、

C○1点

Y○1点〈総合||まとめること〉

苦い思いに捕われたから。(9点)

【構造点】

・Xは、傍線部の理由を、AとBの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する、〈逆説||矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈逆説||矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

・Yは、条件A、BをCに〈総合||まとめること〉する仕組みへの評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上入っており、それに条件Cがあれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y〈総合||まとめること〉 Aの要素+Bの要素+C ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士、また条件A、B内で部分採点可能。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件・要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「自分が死ねばこの世はないから保険は不要だと言って、自分を愛人と思わせ、あるいは相手をからかうようにして保険の勧誘員を撃退したが、」(4点)

※ 傍線部の理由を説明する一方の条件。

① 「自分が死ねばこの世はないから保険は不要だと言って、」の要素に1点。

○ 「自分が死ねばこの世は存在しないも同然だから保険はいらないと、」「自分が死んで存在しないこの世なんて想像できず、ないに等しいから保険は不要と」などでも可。

× 「自分が死ねばこの世はない」「保険は不要」の二成分がそろっていないなければ×0点。

② 「自分を変人と思わせ、」の要素に1点。

「自分を気が狂っていると思わせる」「自分をキチガイと判断させる」などでも可。

× 「自分」「変人と思わせる」の二成分がそろっていないなければ×0点。

③ 「あるいは相手をからかうようにして」の要素に1点。

○ 「または冗談で困らせるようにして」「あるいはバカなことを言って相手を怒らせようとして」などでも可。

× 「相手」「からかう」の二成分がそろっていないなければ×0点。

④ 「保険の勧誘員を撃退したが、」の要素に1点。

○ 「保険の勧誘員を追い返したものの、」「保険の勧誘員を困惑させたが、」などでも可。

× 「保険の勧誘員」「撃退」のニュアンスの二成分がそろっていないなければ×0点。

B 「半年前に見た、訓練でのおどしている保険新入り勧誘員たちの姿を思い出して、

今回の勧誘員に二重につらさを与えたことに気づき、」(2点)

※ 傍線部の理由を説明する、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「半年前に見た、訓練でのおどしている保険新入り勧誘員たちの姿を思い出して、」の要素に1点。

○ 「半年ほど前に見た、びくびくしながら訓練を受けている保険新入り勧誘員たちの様子を思い出して、」「半年前、保険新入り勧誘員たちが、つらそうに訓練している姿を思い起こして、」などでも可。

× 「半年前に見た」「訓練でのおどしている保険新入り勧誘員たちの姿を思い出して」の二成分がそろっていないければ×0点。

② 「今回の勧誘員に二重につらさを与えたことに気づき、」の要素に1点。

○ 「今度の勧誘員に苦痛を重ねて与えただろうことに気がつき、」「家に来た勧誘員につらさを倍加して与えただろうことに思い至り、」などでも可。

× 「今回の勧誘員」「二重につらさを与えたことに気づき」のニュアンスの二要素がそろっていないければ×0点。

C 「苦い思いに捕われたから。」(1点)

※ A、Bをまとめて結論づける条件。

○ 「苦い思いを拭えなかったから。」「深々と苦い思いをかみしめなければならなかったから。」「などでも可。

× 「苦い思い」「捕らわれた」のニュアンスの二成分がそろっていないならば×0点。

- ※ 全ての解答において、「逢う」は「会う」でもよしとする。
 - ※ 全ての解答において、「平貞文」は「平中・平仲・貞文」でもよしとする。
 - ※ 全ての解答において、「本院侍従」はこれ以外では×とする。「本院・侍従」は×。
- ただし、この×は誤字と同じ扱いとし、その箇所には2点以上配点されている場合はマイナス1点とする。

問一(1) 傍線部を現代語訳語しなさい。 【3点】

- 【該当傍線部】 A1逢はで帰す事B2よも
【模範解答】 A1逢わずに帰すこともB2まさかないだろう

【ポイント】

- A【1点】 逢はで帰す事 ↓ 逢わずに帰すことも
※「逢わずに」は「逢わないで」などでもよい。「逢えずに・逢う」ができなくて「など可能の意がある場合は×」。
- ※「帰す」は「帰らせる」でもよい。「帰る」は×。

B【2点】 よも ↓ まさかないだろう

- ※「まさか・決して・よもや」と打消推量「ないだろう・あるまい」の呼応があって【2点】。
※打消推量「ないだろう・あるまい」は、単なる打消「ない」では×。
※「まさか・決して・よもや」か、打消推量「ないだろう・あるまい」のいずれかしかない場合は【1点】。

問一(2) 傍線部を現代語訳語しなさい。 【3点】

- 【該当傍線部】 A1なべてならず、B1いとどC1心にくくて
【模範解答】 A1並々ならず素晴らしく、B1ますますC1奥ゆかしくて

【ポイント】

- A【1点】 なべてならず、 ↓ 並々ならず素晴らしく、
※「並々ならず」は「並大抵でなく・格別で」などでもよい。「素晴らしく」はなくてもよい。

B【1点】 いとど ↓ ますます

- ※「とても・たいそう・非常に」などは×。

C【1点】 心にくくて ↓ 奥ゆかしくて

- ※「心ひかれて・魅力的で」など、または「上品で・優雅で」などでもよい。

問一 (3) 傍線部を現代語訳語しなさい。

【4点】

〔該当傍線部〕 A 1心もとなく、B 1あさましく、C 1うつし心も失せD 1果てて
〔模範解答〕 A 1気がかりで、B 1あきれ、D 1すっかりC 1正気を失って

〔ポイント〕

A 【1点】心もとなく、 ↓ 気がかりで、

※「不安で」でもよい。「じれったくて・待ち遠しくて・はっきりしなくて」などは×。

B 【1点】あさましく、 ↓ あきれ、

※「驚き・意外で・びっくりして・情けなくて・嘆かわしくて」などでもよい。「興奮して・見苦しくて」などは×。

C 【1点】うつし心も失せ ↓ 正気を失って

※「平常心も失って・気が確かでいらなくなって」などでもよい。

D 【1点】果てて ↓ すっかり

※Cが×の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で×になっている場合は得点できる。

※「まったく・まさに・完全に」など、または「くしきる」が付いている状態でもよい。

※「くってしまう」だけでは×。

問二 傍線部はどのような意味か、わかりやすく説明しなさい。

【8点】

〔該当傍線部〕

「しばしこそあらめ、遂にはさりと」と思ひて

〔模範解答〕 A 1本院侍はB 1しばらくの間はC 1手紙に返事をするだけのD 1つれない態度をとっているが、E 1そうはいつでもやはり最後には

F 2直接逢うだろう、G 1と平貞文が思った、という意味。

〔ポイント〕

A 【1点】 本院侍は

※CもDもFもO点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点でO点になっている場合は得点できる。

※C・D・Fの主語として、「本院侍」が明らかであればよい。「本院侍に対して」などは×。

B 【1点】 しばらくの間は

※CもDも×の場合、CにもDにも係っていない場合は得点できない。ただし、誤字等の減点でO点になっている場合は得点できる。

※「当面」など、または「今は・現在は」などでもよい。

C 【1点】 手紙に返事をするだけの

※「手紙をやりとりするだけの関係である」の意があればよい。「手紙を書いたが・手紙のやりとりが続いたので」などは×。

D 【1点】 つれない態度をとっているが、

※「逢ってくれないが・逢おうとしないが」などでもよい。「逢えない・逢う」とが不在「」でもよいとする。

F【1点】 そうはいつでもやはり最後には

※ **Fが0点の場合は得点できない。**ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※ 「最後には・結局は・ついには」など、または「いつかは・いずれは」などもよい。

※ 右の意がない「そうはいつでも・やはり・さすがに」などや、「どうどう・やっつ」などは×。

F【2点】 直接逢うだろう、〜 という意味。

※ 「逢うだろう・結ばれるに違いない」などでもよい。。

G【1点】 と平貞文が思った。

※ **Fが0点の場合は得点できない。**ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

問三 傍線部で、平貞文はどのようなことを言おうとしているのか、わかりやすく説明しなさい。 **【8点】**

【点】

〔該当傍線部〕 「これこそはらんは、むげに浅き」といこそ

〔模範解答〕 **A3** ひどく降る雨を物ともせず逢いにやって来た**C3** 自分には、 **B2** 本院侍従に対する

(C) 深い愛情がある、ということ。

【ポイント】

A【3点】 ひどく降る雨を物ともせず逢いにやって来た

※ **Cが0点の場合は得点できない。**ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※ 「雨をいとわず来た」の意があればよい。

※ 「来た・来る」の意がなく、「雨をいとわない・雨であきらめない」の意がある場合は **【2点】**。

B【2点】 本院侍従に対する

※ **Cが0点の場合は得点できない。**ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※ **C**の「愛情」が「本院侍従」へのものであることが分ればよい。。

C【3点】 自分には、〜 深い愛情がある、ということ。

※ 「自分」は「平貞文」でもよい。これがない場合は **【2点】**。

※ 「深い愛情がある」は「愛情が浅くない」でもよい。

※ 右の**A〜Cの意がないが**、「雨を嫌に思って来ない男は、愛情が浅い」といっこと。「**や**」雨に妨げられて来ないのは、愛情が深くない」といっこと。「**の意がある場合は【3点】とする。**」

問四 傍線部と同じ場所をさす文中の言葉を抜き出しなさい。【4点】

〔該当傍線部〕 A 4 こなた

〔模範解答〕 A 4 局

〔ポイント〕

A【4点】 局

※「局」以外は×。

問五 傍線部には、平貞文のどのような心情が記されているか、わかりやすく説明しなさい。【10点】

〔該当傍線部〕 すかし置きつる心憂さ

〔模範解答〕 A 2 本院侍従が、B 2 閉め忘れた遣戸を閉めてすぐに戻ると言ってC 2 奥へ入ったまま戻らず、D 2 自分をだまして（C）置き去りにしたE 2 つらさ。

〔ポイント〕

A【2点】 本院侍従が、

※CもDも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※CやDの主語が「本院侍従」であると分かれればよい。

※CやDが「置き去りにされた」・「だまされた」のように受身表現で書かれている場合は「本院侍従に」「でもよい」。

B【2点】 閉め忘れた遣戸を閉めてすぐに戻ると言って

※CもDも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※「閉め忘れた」はなくてもよい。

※「遣戸（戸）を閉めると言って」「の意があれば【1点】」。

※「すぐに戻ると言って」「の意があれば【1点】」。

※右の二つの意がない場合に限り、「期待させて」「の意があれば【1点】とする」。

C【2点】 奥へ入ったまま戻らず、置き去りにした

※Eが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※「奥へ行ったままになった」・「戻らなかった」・「置き去りにした」などの意のいずれかがあればよい。

※「置き去りにされた」のように受身表現になってもよい。

D【2点】 自分をだまして

※Eが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※「だました・欺いた・偽った・嘘をついた・たばかった」の意があればよい。

※「拒んだ・はねつけた・拒絶した・避けた・突き放した・従わなかった」などは【1点】。

※「だまされた」のように受身表現になってもよい。

※「自分を」はなくてもよい。「平貞文を」でもよい。

F【2点】 じぶち。

※**CもDもO点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点でO点になっている場合は得点できる。**

※「悲しさ・くやしさ・嘆かわしさ・嘆き・心痛・落胆」などでもよい。

※「恨み・不愉快さ・怒り」などは**【1点】**とする。



漢文(35点)

問一 10点

(模範解答例)

A ○1点

秦が趙に勝てば、

B ○1点

魏は

C ○1点

秦に

D ○2点

服従して

E ○1点

国を存続させればよいし、

F ○1点

秦が趙に勝たなければ、

G ○1点

敵の兵力の消耗に乗じて

H ○1点

秦軍を攻撃して

I ○1点

国を守ることができるから。

各加点要素の加点の条件

【A・B・C・D・E・F・G・H・Iに関して部分採点を行う】

Aの要素 1点 「勝趙」の訳

※主語「秦が」がないものはA全体×(A0点)

※「秦が勝てば」だけで、「趙に」がないものは可。

※「秦が趙に勝ったとしても」のような言い方も可とする。

Bの要素 1点「吾」の言い換え

※「魏国」も可。

※「私」「われわれ」「我が国(吾が国・わが国)」など、「吾」＝魏であることを明示していないものはB全体×(0点)。

Cの要素 「焉」の具体化 1点

※「焉(これ)」「秦(秦国)」であることが明示されていればよい。

※「これ」のままであったり、指示内容が間違っているものはC全体×(C0点)。

Dの要素 「服」の具体化 2点

※「服従する」の意味にとれる内容であれば可。(「服属する・配下になる・臣従する」など)。

Eの要素 秦に服従することの、魏にとつての利点の説明 1点(注)

※「国を存続させることができる・国を守れる・国を滅亡させずにすむ」という内容であれば可。

Fの要素 「不勝趙」の内容 1点

※「秦が」という主語の有無は問わない。

※「趙に負けたら」という内容も許容する。

※「趙」がなく、「秦が勝てなければ(負ければ)」も可とする。

Gの要素 「乗弊」の説明 1点

※「(秦の)兵力の消耗に乗じて」「兵力が消耗したことを利用して」という内容であれば可。

※「兵・軍隊」の要素がなく、「秦の消耗(秦が弱っていること)に乗じて」というような内容でも可。

Hの要素 「撃之」の説明 1点

※「之」||秦(秦国・秦軍)であることが明示されていないものはH全体×(H0点)。

※「撃」は「攻撃する」「撃退する」の意であれば可。「撃つ」も許容する。

I 秦軍を攻撃(撃退する)こと、魏にとつての利点の説明 1点(注)

※「国を守ることができる・国を存続させることができる・国を滅亡させずに済む」という内容であれば可。

(注) Eの要素とIの要素を一箇所にまとめて書いても可。その場合はまとめて書いた部分に2点を与える。

(例) もし秦が趙に勝てば、趙は秦に服属すればよいし、もし秦が趙に勝てなければ、軍の消耗に乗じて秦軍を攻撃することができるので、どちらにしても国を存続させることができるから。
(傍線の部分に2点を与える)

問一 5点

不_レ勝_レ趙、則 可_二乘_レ弊 而 擊_レ之

*解答例のみ。

問三 5点

(模範解答例)

A ○2点

たとえ秦が趙に勝ったとしても、

B ○1点

わが国にとつて

C ○2点

何の害があるだろうか、いや、何の害もないだろう。

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

Aの要素 「縦ひ其の趙に勝つとも」の解釈 2点

※「縦」の訳「たとえ」は「もし・もしも」も許容する。

※「縦」の訳がないものや間違っているものはA 1点減点。

※「其」の指示内容を「秦・秦軍」であることを明示していないものはA 1点減点。

※「勝ったとしても」は「勝つとしても」「勝つても」も可。

※「勝つたならば」「勝つならば」はA 2点減点。

Bの要素 「我に於いて」の解釈 1点

※「我」の訳は、「わが国」は、「魏・魏国・われわれ」も可。

※「我」の訳を「私」としているものはB×(B 0点)。

※「に於いて」の訳「にとつて」は、「に」「に対して」なども可。

※「に於いて」の訳をそのまま「において」としているものはB×(B 0点)。

Cの要素 「何をか損はん」の解釈 2点

※「何の害もない・何も損なわない・何も損はない」という内容が明示されていなければよい。

それが明示されていれば、「何の害があるだろうか・何を損なうだろうか・どうして害があるだろうか」の部分は書いていなくてもよい。

※「何の害があるだろうか」と直訳したのみで、「いや、何の害もない」の部分に欠いているものはC 1点減点。

※「何をか損はん」を直訳する場合、「何をか」は、「どうして」と訳してもよい。「損ふ」は、「損なう・傷つける・損害を与える」などと訳してもよい。

問四 5点

(模範解答例)

わざわざのまはにおのれにおよぼんとするをしらざればなり

(別解)

わざわざのまはにおのれにおよぼんとするをしらざるなり

※「わざわざ」は、「わざわざひ」「わざわざひ」「わざわざ」も可。

※「わざわざの」の「の」が脱落している場合は2点減点。

※「およぼんとするを」を「およぼんとすを」としているものは2点減点。

※「しらざるなり」を、「しらずなり」としているものは2点減点。

※文末の「也」を読まず、「しをしらず」としているものは1点減点。

※他は模範解答例および別解と一箇所でも異なっているものは全体×(0点)。

問五 10点

(模範解答例)

A ○2点

秦が趙を攻めて、趙に勝てば、

B ○2点

秦はそれだけで満足せず、魏をも攻めてくるにちがいないのに、

C ○1点

魏の貴族たちが、

D ○3点

今は魏にとって大きな危機であることに気づかず、

E ○1点

むしろ魏にとって好都合だと思って

F ○1点

安心していること。

各加点要素の加点の条件

【A・B・C・D・E・Fに関して部分採点を行う】

Aの要素 子順の現状認識 2点

※「秦(軍)が趙に勝てば(趙が秦に破れば)」という内容があればよい。

※「秦が趙に勝つことは確実である」という書き方でもよい。

Bの要素 秦の今後の行動についての子順の予測 2点

※「秦は魏を攻めてくる」「秦は魏をも亡ぼそうとする」「秦は魏をも奪おうとする」という内容があればよい。

Cの要素 D・Eの主語の明示 1点

※「魏の貴族」「魏の大夫」「魏大夫」も可。

※「魏」がないものはC×(C0点)。

Dの要素 魏大夫が「燕雀」と同じである理由 3点

※「(今は)大きな危機である」「危機が間近に迫っている」ことに「気づいていない」という内容であればよい。

※「それ(そのこと)に気づかず」のように指示語で処理しているものはD1点減点。

Eの要素 魏大夫の現状認識(1) 1点

※「魏に於いて便(魏にとって好都合である)」と思っている、という内容があればよい。

「魏(国・母国)を守ることができると考えている」「魏を存続させることができると思っている」という内容でもよい。

Fの要素 魏大夫の現状認識(2) 1点

※「安心している」「油断している」という意味の表現があればよい。